

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104989		
法人名	ラッキー自動車株式会社		
事業所名	グループホーム 陽光の家		
所在地	長崎県長崎市三川町923番5号		
自己評価作成日	平成 22年 12月 26日	評価結果市町村受理日	平成 23年 2月 17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成 23年 1月 21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

リハビリ運動やレクリエーションで身体機能を維持させる為の運動を楽しいものになっている。誕生会、年間行事を充実し、職員と共に楽しんだり喜び合っている。利用者が地域とつながりながら暮らせるよう、地域との交流を大事にし、助けられたり助けたりの関係である。月1回その方だけの生活の様子を伝える写真を添付した「ひかり通信」を発行し、暮らしがわかるようにして家族に喜ばれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、利用者職員が日々共に喜び、共に楽しみ家庭環境のもと、利用者の身体及び心身の健全確保に努められている。市・地域包括支援センターとの共同で講座を開催するまでに至り、認知症の周知を図ることができ、地域密着型ホームとして確立している。職員の尽力により、地域との交流を積極的に取り組むことで、地域への還元繋がっている。また、服薬時の言葉かけ等をマニュアル化して統一したチームケアで尊厳を持って、利用者一人ひとりに対応されている。特に優れている点は、職員の細やかな配慮で食事が提供されていることに加え、おしみのない明るい笑顔で利用者本位のケアに努められている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念である「ゆっくり・のんびり・自由に・ありのままに」は開設当初より継承されている。理念の言葉どおりに支援する事。即ち地域の中で、その人らしく暮らすことであると捉え日々実践している。	理念の「ゆっくり・のんびり・自由に・ありのままに」に基づいて、地域の方と職員も共に関わり、癒しの場である家庭的な生活の継続を支援しながら、共に喜び、共に楽しく過ごされている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と管理者が老人会に入会し、老人会の例会や日帰り旅行・忘新年会に参加している。又、ホームは自治会に加入し、地域行事にも参加し、ホームの行事の際には近所の方にも声掛けを行い、交流を大切にしている。	地域の方との交流の大切さを認識して、管理者が地域とのパイプ役を努めている。利用者と共に行事や旅行に参加され、相互に声をかけ合い、協力関係を構築されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加し、又運営推進会議に自治会役員、民生委員に参加していただいたりして、認知症の理解と支援を頂いている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの活動及び現状報告他ホーム独自の議題を用意し意見交換を行っている。率直な意見が出され、サービス向上に活かしている。	会議は2ヶ月に一回を目途に実施され、地域のお世話をする方の悩みの相談や地域の情報の交換の場となっている。行政と町を結びつける機会となる会議で、今後も、地域の認知症の方のサポートへの尽力が期待される。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	長崎市の介護相談員を受け入れている。又、質問や相談は介護保険課・すこやか支援課に随時電話で行い、協力や支援を頂いている。し主催の研修会にも参加している。	利用者のことで悩みを相談したり、市・地域包括支援センターとの共同で地域の方に認知症の周知への講座を開催したり、理解と協力関係の構築に尽力されている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠しておらず、利用者様が自由に入り出来るようにしている。代表者及び全職員は身体拘束をしないケアについて理解し実践している。	利用者や職員の見守りのもと施錠もなく、穏やかに過ごされている。身体拘束をしないケアを理解して努められている。また、転倒を未然に防ぐために検討委員会を設けて、家族の理解のもと、安全に向けての対応に心がけられている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は高齢者虐待防止関連法の研修を受け、所内で全職員に研修を行い、皆さんが幸せに生きる権利があると認識し、虐待は行われていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業、青年後見制度について研修を受け、必要に応じ、長崎市すこやか支援課に相談するなど活用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、又改定等の際は利用者や家族に理解出来るように契約書を音読し十分説明を行い納得いただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームを訪問された折、相談や問題があれば話し合い、又本年度より家族会を年2回開催し、家族の意見・要望を出して頂き競技し解決し運営に反映している。	イベントの企画が職員にとって多忙であることを理解して頂き、敬老会と家族会を家族会主催で実施している。合唱やゲームを取り入れ、無理のない家族会を実施して、家族との関わりに繋がられている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング及び朝の申し送り時職員の意見や提案を受け、運営に反映している。	職員の研修や勤務体制・休暇の希望の意見を理解して、処遇においても配慮されている。職員の意見を否定せず、業務においてチームワークを保つことで、職員の笑顔に繋がりがり楽しく業務をされていることが窺える。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業時間については手当を付けている。実績、勤務状況等を評価し1名の職員が正職員に昇格する事が出来たが、まだ職場環境条件が良いとは言えない。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成の為に年間計画を立て、法人内外の研修を受ける機会を作り、職員の質の向上に取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の研修会に参加し、意見交換、ネットワーク作りや勉強会		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で本人が困っていること、不安なことやどうされたいのか伺い、傾聴と心に寄り添うことで、安心していただくよう関係づくりに取り組んでいる。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前に家族の方に入所以前からの話をじっくり伺い、家族が困っていることや不安の解消や要望等を家族の心に寄り添い、傾聴し理解することで良い関係作りに努めている。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者とケアマネジャーはサービスを導入する段階で本人、家族に伺った話を元に今解決すべき課題をあぶり出し、どのような支援が必要か考え対応している。			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に個別のサービスを行う中で一緒に笑ったり歌ったり、同じ時期を過ごす中で、苦しみを理解したり、知恵を授かったりと支え合う関係にある。			
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と共に本人を支え合う一員とみなし、ホームで開催する敬老会や誕生会に参加してお祝いし、共に楽しい時間を過ごせるようにしている。			
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩の途中、友人宅へ立ち寄りたり、自宅や子どもの家までドライブしたり、日曜日の教会の礼拝に行ける様支援に努めている。	利用者の馴染みの関係が断たれることのないように、宗教関係の集会への参加や教会のミサを欠かすことなく、利用者ひとり一人の個別的な支援に努められている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に利用者同士の関係を把握し、食事やソファーに座る席を定め、利用者同士も支え合う関係にあり、心地良い人間関係が築ける様配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も病院へお見舞いに行ったり、家族と電話で連絡し様子を伺ったり相談や支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の多くは自分の意志を伝えることが出来る為、会話の中から希望や意向を伺うようにしている。困難な場合は職員と話し合いを持ち、本人本位の支援になるよう努めている。	利用者の日頃の生活状況を職員の気配り・目配り・心配りのなかで一人ひとりの会話の中から、思いやりの意向を見出せるように努められている。教会へのミサや集会への参加を心のよりどころとして支援されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に御家族に伺ったり、今まで利用されていた所より情報提供を頂き、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしていく中で、生活パターンや心身状況、出来る所、出来ない所の把握に努めている。」		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の話しを伺い、センター方式を取り入れた介護計画を作成している。3ヶ月たびにモニタリングを行い、問題があれば毎月のミーティングで話し合い、現状に即した介護計画を立てている。	訪問時の家族に要望を傾聴して、利用者の日頃の状況に沿って支援の取り組みを模索したり、職員の気づきをメモにとり、検討会議で話し合い、職員の意見を反映した計画の作成に努められている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づきを個人記録に記入し問題が出た時点で職員に伝え解決し、毎朝の申し送り時情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の事情で訪問されない方には家族に代わって出来る限りの対応をし、家族が来られた時は、一緒に食事を楽しんで頂いたり、面会時間は設定せず、いつでもゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として、ふれあいセンター、公民館があり、イベントの誘いを受けた時、散歩時立ち寄り地域での暮らしを楽しんでいる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を伺い、入所前のかかりつけ医それぞれ利用されている。問題が起きたらかかりつけ医の指導を受けながら適切な医療が受けられるよう支援している。	家族に通院を依頼することもあるが、ほとんど職員が通院の支援をされている。利用者は医師と会うことを楽しみにしており、かかりつけ歯科医とともに馴染みになり、信頼のもと往診や治療の相談に対応してもらっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームには看護師はいないが、居宅療養管理指導を受けているので、入居者を良く知る看護師に相談しながら健康管理を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供所を提出し、病院と連絡を行いながら、必要と有ればケア会議に参加し、正確な情報を把握し、安心して退院できる支援を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したり、終末期である事が予想された場合医者の指導を元に家族と話し合いを行い、事業所の出来る所、家族の意向を伺い方針を立て、合意の通りに支援している。又、地域の医師にも健康管理や相談を行いながら支援している。	看護師の配置はないが、食事やケアにおいて利用者の健康保持に努め、できる限り穏やかな生活への支援に配慮されている。入院の際は家族・主治医・職員と話し合いを重ねながら対応を考慮されている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が順番に市内の病院が主催している応急手当の講習会に参加し、実践力を身につける様努力している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いで消火・避難訓練を行い、地域との協力体制について運営推進会議などで話し合いをしている。	顔写真入り名札と緊急時持ち出しファイルをすぐに作成され、消防署立会いのもと地域の方も参加して、夜間想定訓練を実施されている。災害時の避難について地域の方を交え話し合い、助言をえられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドやプライバシーを損ねない丁寧な言葉使いにも指導している。記録等の個人情報の取り扱いにも注意している。	接遇についての研修及び、その都度の言葉使い等職員相互に留意されている。服薬時の言葉かけも利用者の気持ちを損ねないように、マニュアル化した文言で丁寧に提供され、慣れ合いにならないような対応をされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に会話の中で本人の思いや希望を言われる様働きかけ、添えるよう支援し、その方の力量に応じた説明を自己決定して頂きながら、納得して暮らせるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝は個人個人のペースで起床し、一日の流れはホーム全体の予定があるが、参加は自由で思い思いの一日を過ごされている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは個人の決定でされている。乱れている時は職員が職員が整えている。理美容は美容師の資格を有する職員が2ヶ月に1回本人希望の髪型にカットしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の力に応じ、又希望により職員と一緒に食材の準備、配膳、下膳、皿洗いなどをして頂いている。下準備をすることで食事に対する期待や楽しみを引き出すように支援している。	食への楽しみをよりいっそう持って頂ける様に、魚料理を多く取り入れ、新鮮な刺身も提供されている。調理職員の細やかな配慮が味付け、彩り、トマトの湯むき等に窺える。利用者も出来ることで調理への楽しみを支援されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の能力と摂取量、体調に応じた食事を提供し、水分補給は、ペットボトルにお茶を入れ、夜間は白湯を自室に置いて水分を小まめに摂っていただく様にしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い、オムツの使用を出来るだけしないようにし、排泄の自立に向け支援している。	利用者一人ひとりの排泄状況を把握して、できるだけ失敗を気にせず過ごせるように、トイレ誘導やパットの使用で対処されている。「私も布パンツをはいて見ようかな？」の利用者の言葉を聞いて、対応を試みられている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の重要性を職員は理解し、毎朝排便の確認を行い、野菜や繊維質の食材を使用し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、便秘にならないよう取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は一応決めているが、本人の希望やタイミングに併せて入浴を楽しめるようにしている。	利用者の容態をチェック後、楽しんで入浴して頂ける様に、たっぷりの流し湯で週に3回ほど入浴支援をされている。入浴拒否の方には声かけを工夫して、清拭やシャワーなどで清潔の保持に努められている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの睡眠パターンを把握し、昼間は出来るだけ楽しく暮らせる様レクレーション活動を行い、一日の生活リズムを作り、安眠出来るよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は医師の処方箋に従い、使用目的、用法、用量を理解し、誤投薬が無い様職員が名前、服薬日時を声に出して確認し、服薬後は服薬チェック表に記録する。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で、出来ることは積極的に行って頂き、ホームでの役割分担を担っていただいている。又、散歩の途中知人宅に立ち寄り、一緒に買い物を手伝って頂きながら気晴らしを行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関の鍵は夜間を除き施錠していないので、庭を歩きたい方は自主的に散歩されている。天気の良い日は散歩をお誘いし、ご近所のお友達の家で遊ぶ方も居る。又、子供さんの家を訪問したり、自宅を訪問するなどの支援をしている。	催し物の情報収集に努め、舞踊を観劇したり、毎月の外出予定を実施する他、訪問日も利用者の状況を把握してドライブへ出かけられ、利用者の「楽しかったよ」の声が窺え、外出の機会を多く支援されている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	議事新で小遣いを管理出来る方は、病院受診の折りやショッピング時にご自身の好みの買い物をし、お金を財布から支払うよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は何時でも自由に掛けられる。手紙のやり取りができるようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は明るく壁には職員手作りの季節に合わせた造花を展示し、玄関やテーブルには季節の花を飾るなど工夫している。	2階の居室の利用者は、エレベーターの操作を自ら行い、1階へ移動されている。階段には安全への配慮をされている。ソファでゆったり過ごされたり、出来ることで調理の手伝いをしたり、家庭的環境のもと、語らいながら笑顔で過ごされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや一人用の椅子が置いてあり、職員と入居者、入居者同士談話したり、テレビを観たりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時ご家族の方に使い慣れた物や好みの物を持って来ていただく様お願いし、居室にはご家族との写真を飾り、御本人なりに心地良い居室になっている。	利用者が無理のないベッドの高さで過ごせるように、既成のベッドを除き、木製の台を作成されている。家族の理解と協力を得て、馴染みの物を持ち込まれており、居心地の良い居室で自立に向けた支援をされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーに出来ており、セーフティバーを設置し、安全に自立した生活が送れるようにしている。		